

多摩地域の在宅医療・介護・福祉・保健を支える

ふれあい通信

2024
5月号



Index

P2

特集

80・50世帯とひきこもり ～家族支援の入り口～

P6 ケアマネ相談室 File 19 たまふれあいグループ連携施設のご紹介 その20

P7 たまふれNEWS

P8 スタッフ紹介 たまレポ! 訪問診療科 看護師 植松 日南

80・50世帯 と ひきこもり

～家族支援の入り口～

これまで支援の狭間にあった「80・50世帯」と「ひきこもり」が、親の介護や医療をきっかけに支援が入るケースが増えています。今号では、このような生きづらさを抱えるご家族への支援をどのように進めるべきかを考察していきます。世間一般に広まった「8050問題」ではなく「80・50世帯」としたのは地域課題として捉えるためです。



重複する生活課題

- 閉じこもり・ひきこもり
- 80・50世帯
- 老老介護
- セルフ・ネグレクト
- ヤングケアラー
- ダブルケア
- 精神的困窮
- 知的障がい
- 発達障がい
- 社会的孤立

自由記述では、

- 閉じこもり・ひきこもり：家に人を入れたくないと医療介入・支援拒否が見られる

- セルフ・ネグレクト：ごみ屋敷、親が着替えをせず不衛生な状態にある
- 社会的孤立：子に精神疾患があり、親亡き後の孤立が心配される

という生活課題が挙がりました。

関係機関との連携

生活課題解決のために「患者さん・ご利用者のケアマネジャーや医療相談員に相談した」「地域包括支援センターや行政、生活支援コーディネーターにつなげた」という回答が得られました。

家族の課題に介入は必要

個人情報保護の観点やサービス対象者ではないことから、介入をためらうかもしれませんが、ご家族の生きづらさは患者さん・ご利用者本人にも影響を与えるため、ご本人の便益のためにも家族支援の実施は適切です。

在宅医療のアウトリーチ

回答者の9割が支援を必要とする家族の存在を認識し、関係機関につなげる行動を取っており、在宅医療のアウトリーチが重要であることが分かります。

ケアマネジャー・医療相談員以外の専門職の相談先（n=36）



アンケート結果の考察

在宅医療で察知 たまふれあいグループ実施 「患者家族等に関する アンケート」

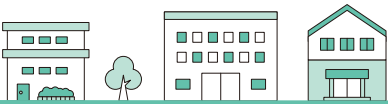
たまふれあいグループの訪問診療、訪問系医療サービス、居宅介護支援、計画相談援助などの専門職（有効回答数 n=50）を対象に実施した患者さんの同居家族に関するアンケート結果によると「介護・医療・福祉等のサービスにつながつて

社会的孤立は地域の課題

「改正社会福祉法」では、福祉に携わる者が地域のケアマネジャーや医師、看護師などの関連機関と協力し、複合的な課題に対する解決策を模索することが推奨されています。医療や介護の介入がきっかけで社会的なつながりを持つようになった家庭が再び孤立しないよう関連機関と連携を図る適切な「おせっかい」が大切です。



これらの課題に対応するには、多職種との連携が不可欠です。そのため、対応の第一歩は関係機関への連絡となります。川崎市では、以下の機関がつなぎ先となります。



支援につなぐ主な関係機関

ひきこもり専門相談窓口

ひきこもり地域支援センター

2021年4月に開設。ひきこもりの状態にある本人や家族からの相談を広く受けた上で、適切な支援機関につなげる中核的機関です。

総合的な相談窓口

地域みまもり支援センター

子どもから高齢者・障がい者まですべての地域住民を対象にした包括的な組織。各区に配置されています。

障がい者を対象にした相談窓口

障害者相談支援センター

川崎市から委託を受けた法人が設置し運営する公的な相談窓口です。

- 地域相談支援センター（地区担当制）

- 基幹相談支援センター（市内3カ所体制）

ひきこもり状態にある本人や 家族が地域とつながる フォーマル・インフォーマルの 連携イメージ



80・50世帯 事例紹介

ケアマネの 視点

80・50世帯の虐待事例から家族支援を考察します。

家族情報

母：80代（要介護2・ヘルパー週2回）
長男：50代（週2～3日の就労、完全な未就労ではない）

長男への介入開始時の状況

サービス開始からケアマネジャー、ヘルパーともに長男を見たことがありません。長男は気配を消して居留守を使っていた。1年前、母親の入浴介助時に青あざを発見し虐待が分かりました。あらゆ

る方法で長男との接触を試みましたがつながりを持てません。

長男への接触の経緯

母親の部屋だけ、ごみが山積していたためケアマネジャーが包括に相談し、家族がいる場合は使えない「ふれあい収集（ごみを出すことができない方を対象に、ごみを自宅前または所定の場所まで直接収集しに行くサービス）」を特例で利用の承諾を得ました。サービスを長男に相談するよう母親に伝えたところ、長男はゴミ箱を自宅玄関近くに置くことを拒否。しかし、反応を示せることが分かり一歩進みました。その後長男宛てに、手紙と簡単に回答できるアンケート用紙を同封し郵送したところ、母親経由でアンケート用紙をもらうことで接点が持てました。

考察

ご家族の生き方・考え方を尊重したコンタクト方法を模索し、接触を試み続けることが大切です。また、80・50世帯の社会的孤立が虐待を生む要因となり得るため、ご家族への適切な介入は大変重要です。

ひきこもりの方が、はじめて支援が入ったときから外に出られるようになるまでに、ひきこもった年数分時間がかかるとみえます。事例は稀なケースで、大方、少し進んではまた戻ることを繰り返しながら、長期にわたる支援となります。

ひきこもりの方が人と話せるようになる、外に出られるようになるきっかけはさまざまで、親の入院や死別という大変な出来事であることも少なくありません。守ってもらえる存在がいなくなり、自分で動かなければという気持ちが芽生えたとき、その自立の気持ちをうまく引

自立への一歩を後押し

INTERVIEW

ひきこもりの方への自立支援

おおたか あい
大高 愛さん
(たまフレ！
相談支援専門員)

現在の支援の形



家族情報

母：80代半ば(要支援2・精神疾患)
長男：50代(知的障がい)
長女：40代(ひきこもり)
※父は2年前に逝去

相談支援専門員は、障がいを抱えるご本人やご家族が障害福祉サービスを活用できるように事業所とつなぎ、生活全般に対する相談を受けながら情報提供や助言を行っています。

相談支援専門員の視点



経緯

長女は中学での不登校をきっかけに30年以上ひきこもりで、一度も就労した経験がありません。家事は一切できず、行政の介入をすべて拒絶。相談支援専門員が介入するも面会ができませんでした。長男は知的障がいがあり、就労移行支援に通所していましたが休みがちに。母は手に機能障がいがあるため訪問診療が介入しています。その際、PTは母親が虐待されている疑いに気づき、ケアマネジャーに報告。結果、虐待が発覚したため警察が介入し、母親が保護入院となりました。

支援経過

母親の入院後に相談支援専門員が長女を訪問し、ドア越しではありながらも会話を重ねて信頼関係を築きました。また、家族支援の点から母親の地域包括支援

き出せるように介入することで、進むこともあります。

支援の輪を広げる

相談支援専門員として介入時に大切にしていることは、必ず行政の方と連携を取ることです。介入できる支援者を増やし、ひきこもりの方を中心とした人の輪を広げていくことを目指します。一人の支援者だけで対応すると、その一人とながらなくなってしまうときに当事者が再び孤立してしまいますし、一人で抱え込んでしまった結果、支援者の心労が重なることもあるからです。

できることを増やして成功体験を重ねる

支援者同士の情報共有と、支援者がそれぞれひきこもりの方と直接話せる関係をつくることも大切になっています。

支援者同士で話を進める、ご本人ができていることを支援者がしてしまうと、孤立感を強め関係性にひびが入り、命の危険さえも伴います。

ひきこもりの方は人を信頼できないか

考察

長女は人を信用できない状態が長く続いてきたため、それがひきこもりを長期化させている一つの理由と考え、多数の支援者と信頼関係を築いていくことを目指しました。また、初めての母親の不在という経験から「何とかしなければ」という思いが長女に生まれたようです。少しずつできることと成功体験を増やしたことが、自立支援を進められた理由と考えられます。

家族支援で各専門職ができること

患者さん、ご利用者が良くなるようにすることがケアマネジャーをはじめとした専門職の役目ですが、ひきこもりの家族支援においては「何とかしよう」という思いが支援を遠ざけてしまうことになり。その理由は、長らく誰からも手を差し伸べてもらえず、ひきこもりの方が人々

ら社会的に孤立しているので、人の態度をよく見えています。たとえば、「〇〇は自分の範疇ではないからできない」という言葉はNGです。「私は〇〇までならできるので、〇〇ならお手伝いできるけど、どういうことだったから自分でできる？」と一回一回確かめます。そして、実際にやってみて成功体験を増やしていくことが大切だと考えています。

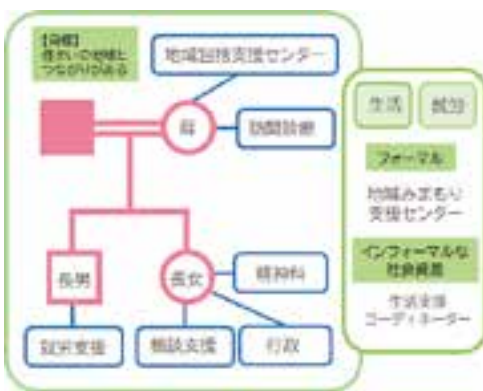
親亡き後のためにできること

いずれは親との別れがやってきます。その準備として、はやいうちから支援者の中で生活する体験として、グループホームでのショートステイや短期入居の



の関わりや人への信頼を失っているからです。ひきこもりの方をいきなり外に出そう、就労させようとするのではなく、自ら動く意思を持てるように、見守りながら信頼関係を築いていくことが重要です。ご家族との関わりを継続しつつ、関係機関につなげることで、そのつながりを広めることが各専門職に求められています。

目指したい家族支援の形



ひきこもりの基礎理解

精神疾患や発達障がいと深く関与する他、学童期のいじめや職場での人間関係から生じるストレスも要因となります。ひきこもりは「誰にでも起こり得るストレスへの対処方法の一つ」であり、特殊なことではありません。偏見や誤解を持たず向き合い、支援につなげることが大変重要です。

機会を設けています。ご家族に何かあったときご本人はかなりのショックを受けています。その精神状態で、知らない場所で、知らない人と一緒に新しい生活をスタートさせるには大変なストレスが伴います。気持ちが安定しているときから、グループホームへの興味を示せるように促します。実際体験してうまくいかなかったとしても、その経験が将来に生きます。

編集後記



今号の特集では世間一般に広まった「8050問題」とはせず「80・50世帯」としました。「問題」は80・50当事者にあるのではなく、子どもが40代、50代となり支援の狭間となっていた「地域の課題」として捉えることが大事だと考えたからです。こうした視点での行政の取り組みは始まったばかりです。本特集が支援のつながりの輪が広がっていく一助となれば幸いです。



"Shall we fun?～楽しんでいきますか?～"「デイサービスふれあい」 2023年度に新プログラムをスタートしました

🐾 皆で楽しむ「アクティビティ」

ご利用者にもものづくりの楽しさを知っていただくため「キャンパスクラフトサークル(手芸クラブ)」を開始しました。作品が完成するたびに、うれしそうな笑顔を見せてくださるご利用者。ご家族にも喜ばれています。パターゴルフとボウリングの本格的な道具を用意し、皆さんで楽しむアクティビティがさらに充実しました。



🐾 見て・作って・味わう「食」

スタッフの持田さんがシェフを務める「MCDクッキング」と「MCDスイーツ」。本活動を通じて、ご利用者と一緒にさまざまな料理を作っています。目で見て楽しむだけでなく、食べても美味しいと感じられる料理です。普段、食事が少ない方やおやつを断っている方も、手作りの味わいに喜び、普段よりもたくさん召し上がっています。

🐾 選んで楽しむ「運動」

デイサービスふれあいの「運動」の最大の特徴は、OT・PTが介入している点とさまざまな器具がそろっている点です。「レッドコード」はもちろん、乗るだけで脂肪燃焼が期待できる「ダイエットレーナーコア」や、全身の筋力強化が可能な「ニューステップ」、そして「コグニバイク」「セラバイタル ティーゴ」「階段昇降」「トランポリン」をご用意しております。機能訓練指導員の指導のもと、ご利用者一人ひとりに合った運動メニューで体を動かすことができます。



ぜひ見学にいらしてください！

「笑いで認知症を予防しよう!」を5月22日(水)に開催します

「たくさん笑って認知症(認知症予防活動)をしよう」をテーマに、たまふれあいグループが主催するイベントです。かわさき落語倶楽部の方をお招きします。一緒にたくさん笑いましょう！

場所 ライフガーデン向ヶ丘2階 セミナールーム

日時 5月22日(水)13:30～15:00

先着50名様

参加費無料



詳細は下記
二次元コード
から



ケアマネジャーの質問に多職種スタッフが答えます！

ケアマネの 気づき

褥瘡ケアは家族の大きな負担となるため、褥瘡悪化の防止には、家族のケアの限界を見極め、限界と感じた場合には、職種間の連携で対応を見直すことが重要です。



ケアマネAさん
Tさんは「娘に負担をかけ



看護師Bさん
塗り薬の使用量が減っており、痛みも増しているようです。Tさんに娘さんが薬を塗っているか聞いたところ「塗ってもらっている」との回答でしたが、日常のケアが難しくなっている可能性がありますね。

ケアマネAさん
Tさん(80代後半、要介護3、独居)のことです。近くに住んでいる娘さんと相談して、訪問看護を3日にしてBさんに入っていたが、体圧分散マットレスを導入しています。ところが最近、褥瘡が進んでいますよ。先日娘さんにお電話したところ、最近仕事が忙しくて介護がつかなくなっているとおっしゃっていました。Tさんのことでお気づきの点がありますか？



ケアマネAさん
そうですね。PT(理学療法士)に現在のADL(日常生活動作)やマットレスの状態の確認をお願いし、入浴介助をしているヘルパーにも状況を聞いてみます。その情報をもとに、担当者会議を開くのが良さそうですね。



看護師Bさん
先日、褥瘡がひどくなり、家族のケアだけでは対応が難しくなったケースで、医師に相談し入院が決定したことがありました。褥瘡ケアは毎日の処置が必要で、日常的な体位管理も重要で、家族の負担は非常に大きいです。他職種との連携で対応策を考えましょうか。

「たくない」といつも言っています。我慢されているようですね。

テーマ 褥瘡ケアの 見極め



看護師
Bさん

いつもありがとうございます！

たまふれあいグループ連携施設のご紹介

その20

そんぽの家 生田

☎044-978-0366

介護付有料老人ホーム



川崎市多摩区長沢1丁目5-15
2011年8月1日開設
事業主体:SOMPOケア株式会社

地域との関わりを深め、地域での暮らしを支えます



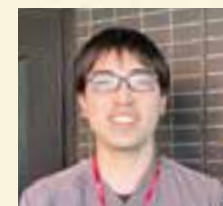
たまふれあい
クリニック
鈴木 忠院長より
おすすめ
ポイント

施設長をはじめ、スタッフのチーム体制がしっかりとされており、お一人おひとりの医療に細やかな対応をされています。医療的にも安心な施設だと思います。

当施設は30室の少人数でアットホームな雰囲気を感じ、木目調の内装が落ち着いた空間で、ご入居者が安心して自分らしく過ごせる空間を提供しています。毎日さまざまなアクティビティを実施しており、特に人気なのはシンガーソングライターである中田亮さんのライブです。中田さんはご入居者の名前を覚えて声をかけ、その温かい対応が喜ばれています。また、週1回の夕方に訪れる「とくし丸」という移動販売も好評で、お刺身が人気です。ご自身で好きなものを購入し、夕食で召し上がるのが食べられる楽しみにもつながっています。

さらに、子ども食堂の取り組みも行っており、子どもたちが配膳を手伝ったり、ご入居者と一緒に作業を楽しんだりしています。この取り組みにより、笑顔が増え、ふれあいの時間が楽しくなっています。当施設の強みはほかにも、SOMPOケア内の認定制度である「認知症ケア力強化ホーム」として運営していることです。ケアコンダクターが中心となり、職員同士の情報共有を密に行いながら、課題解決に取り組んでいます。今後はテクノロジーも活用し、職員は人しかできない介護に注力することで、ご入居者の自立を支援してまいります。

ご入居者の笑顔を見るのが喜びです



ホーム長(介護福祉士)
すやま たくみ
須山 卓美さん

訪問診療科
看護師
うえまつ ひな
植松 日南



頼りになるメンバーがいて、学ぶことが多い毎日です！

たまレボ!

今月のインタビュー

地域相談室 相談員

しんどう ゆり
進藤 優里



こんにちは！ たまふれあい地域相談室です。

今回は、診療看護師として3年目を迎える植松を紹介します。植松が看護師を目指したきっかけは、家族の病院の付き添いや自宅での訪問診療を受ける機会が多く、看護を身近に感じたからです。

植松は看護系の短期大学を卒業後、1年間総合病院で勤務しました。「看護師として働くなら在宅診療で」と考えていましたが、わずか1年の経験で在宅看護が務まるのかと不安も感じていました。そんなときに会ったのがたまふれあいグループです。病院勤務が短期間でも、在宅診療の看護師として活躍している先輩たちがいたこと、そして面接時に院長が言ってくれた「後悔させない」という言葉が、背中を押してくれました。

実際に働いてみると、分からないことはすぐ社

内のさまざまな職種に相談できる環境がありました。迅速な対応が可能のため、患者さんの不安を少しでも減らせることに安心感があるとのこと。こうして多職種連携で情報を共有し、一人の患者さんをみんなで支える体制は、病院勤務では気付けなかったと話します。

病院では医師が治療方針の最終決定をすることが多いですが、在宅診療では患者さんやご家族が納得する選択ができるように多方面から提案します。そのため植松は「ご家族や患者さんが治療の内容に納得し、前向きにより良い生活を送れるように、さまざまな知識を習得し続けたい」と熱心です。今後とも植松との連携をよろしくお願いします。

旅行好きなので、今年3月から「御朱印巡り」を始めてみました。「鶴岡八幡宮」からスタート



2カ所目は「平等院鳳凰堂」へ。どこに行こうか考えるのも楽しいです

祖母といこの3人で行ったバンコク旅行が最高でした。また行きたい!



活発な祖母の趣味は社交ダンス。祖母の先生は全国大会で優勝するほどすごい女性で私の推し! 先生に会いたくて社交ダンスを始めました

地域相談室

イケダのつぶやき



だんだんと暖かくなってきて、皆様も外に出る機会が増えたのではないのでしょうか? 私はSNSで観光地や遊べるスポットを調べて行きたいところを探しています。楽しそうな場所がたくさん



あっていつも悩みます(^_^) そろそろピクニックもいいですね。おすすめスポットがありましたら教えてください(笑)

(地域相談室 相談員 いけだ 池田あゆ)

